

ELLE DECO

エル・デコ
6月号 JUNE
NO.18 1995 1,500YEN

FUN FUN FUN

おもちゃ箱のような 部屋が好き

BACK TO BAUHAUS
すべては「バウハウス」から始まった
GARDENING IN TERRACE
テラスで始めるガーデンライフ



DESIGNER'S WORKS

インテリア・デザイナーの仕事⑩

旅で磨かれる、デザインの感覚

若手インテリア・デザイナーの中で最も注目されている大塚則幸さん。年に一度は旅に出かけ、旅先で出会うものに刺激を受けながら、それをデザインに取り入れていく。特に2年前に訪れたスペインとモロッコの風景の記憶は、大塚さんのデザインを大きく変えてしまった。

photo:Hiroyuki Hirai

Noriyuki Otsuka



フリースボックス
樹脂加工したフリースの管見格子で四方を囲んだ組み立て式の空間。屋内外適はず、大人2人、30分程度で2畳の広さの空間を簡単につくることが出来る。1,900円/5月にデザイン。(W225×D225×H205cm) 12,000円/大塚ノリユキデザイン事務所



photo:Satoshi Asakawa

17ロアスタンド(右)N.O.L. 4°DEAR A.P.* (φ30×H175cm)12万円 (左)N.O.L. 3°DEAR A.P.* (φ30×H175cm)15万円 2ペンダントライトN.O.L. 1°夏*(φ9×H130cm)各17万円 3椅子N.O.C. 1°春*(W44×D40, 5×H80cm)4万8,000円/以上大塚ノリユキデザイン事務所



photo:Satoshi Asakawa



大塚則幸



Giovanette 池袋店 (東京・豊島区)

1993年4月にオープンしたブティック。形にとらわれないデザインを意識し始めたころの作品で、光、特に間接光の使い方に凝った。東京都豊島区南池袋1-28-2 池袋パルコB2 TEL.03(3987)057
5 ①10時~20時半 休無



ティアラ ショールーム(東京)

1993年4~5月のスペイン・モロッコ旅行から戻ってデザインし、10月に完成したファッションメーカーのショールーム。プリーツ3部作の最初の作品である。壁一面に張られたプリーツの裏側に光源を置き、柔らかな光が空間全体を包み込んでいる。残念ながら一般の見学はできない。



形ではないもので空間をデザインしたい

「デザイナーであるために感覚を磨き続けなければいけない。そのために一人旅に出かける。最低でも年に一回。余計な垢を落とし、新しい刺激を探しに行く」
独立して6年目の大塚則幸さん。若手と呼ばれるデザイナーの中で最も注目されている一人だ。

大塚さんはいろいろなものから刺激を受け、デザインのモチーフに取り込んでしまう。それは映画だったり絵画だったり、そして旅先で目に焼き付いた風景だったりする。

独立後最初の仕事が靴店「Akiooka」だった。空間の中に違う空間をつくらせたシンダー状の間仕切りが目を引く。間口が狭く奥に長い店舗で、客を引き込む動線としてデザインされた。これは映画『惑星ソラリス』で見た円や球体の裝飾がモチーフ。オリジナルなデザインを追い求め、まだ形にこだわっていたころの作品である。

絵画から刺激を受けたのがブティック「マーズリーゾラルミネ店」。旅先のウィーンの美術館で出会った、ブリュゲルの『雪中の狩人』に描かれている色を再現した。雪で真っ白な大地と鉛色の空とのコントラスト。それは大塚さんが生まれた北陸の冬景色にも似ていた。白い人工大理石の床とグレーの砂壁。さらにハロゲンランプをあててハレーションを起こさせ、雪のような白さを強調した。

「2年前、スペインとモロッコを1カ月間歩きました。イスラム文化の歴史と時間、光と影で構成された町並みに感動させられました。その旅をきっかけに自分のデザインが変わり始めたのです」
形ではないもので空間を表現できないかと考えるようになったのだ。大塚さんは帰国後にプリーツという新しい素材に

出会う。テキスタイルやファッションの世界ではポピュラーなプリーツ加工だが、これをインテリア・デザインに使えないかと工場とともに開発に取り組んだ。そうして最初にできたのがファッションメーカーのショールーム「ティアラ」である。まず布を樹脂加工でプリーツ状に固める。それを壁一面に張り、裏側から光をあてて、不思議な陰影を持つ間接光にしてしまった。和風の障子越しの光とも異なった、初めて見るデザインだ。

同じようにプリーツを使ったブティック「ネスバ渋谷店」では、プリーツを壁だけではなく天井にまで広げた。表の通りからインテリアは覗けないようになっていた。ドアを開けて中に入ると、やさしい光に包まれた空間が迎えてくれるという仕掛けだ。

そしてこのデザインの集大成といえるのが、組み立て式の空間「プリーツボックス」である。四方をプリーツで囲まれた約2畳大の空間を屋内、屋外を問わずつくることができる。中に座れば外からの光に包まれ、中に光源を置いて外から眺めると大きな行灯のよう。居住空間をリフォームすることがとても流行しているが、これならばもっと簡単に新しい空間を楽しめる。「ティアラ」「ネスバ渋谷店」「プリーツボックス」の3つの作品を、プリーツ3部作と自ら呼んでいる。

「今年の春はチュニジアを旅しようと思っています。先住民民族ベルベル人の穴蔵みたいな住居がホテルになっているそうなんです。そしてできれば秋にはネパールにも行ってみたい」

大塚さんが今度どんな刺激を受けてくるか楽しみだ。それはまたきつと見たこともないようなデザインとなって表れるのだろう。



Noriyuki Otsuka

ネスパ渋谷店(東京・渋谷区)

1994年1月にオープンしたブティック。プリーツ3部作の2番目の作品「ティアラ ショールーム」よりもプリーツを使った面積が増え、光に包まれる印象も一段と強い。建物のファサードは真っ白い壁で、外からは中の様子がわからない。東京都渋谷区神宮前6-19-14 ハッピービル1F TEL.03(3797)4307 ⑨11時~20時 ⑩無



マーズ リーズラ ルミネ店 (東京・新宿区)

ウィーンの美術館で見た絵画、ブリュッセルの「雪中の狩人」をモチーフにしたブティック。白い床が雪を、グレーの壁が鉛色の空を表している。1992年10月オープン。東京都新宿区西新宿1-1-5 ルミネI 5F TEL.03(3345)0267 ⑨11時~21時 ⑩無



Akioka (兵庫・尼崎市)

1990年3月オープンの靴店。独立して最初に手がけた作品で、シリンダー状の曲面など、映画「惑星ソラリス」がモチーフ。兵庫県尼崎市神田中通3-32 TEL.06(412)2251 ⑨10時半/10時(土日)~20時 ⑩無 photo:Nacasa & Partners

